

人権学習展開例

- 主題名 共生社会の実現に向けて①
- 教材名 障害の「社会モデル」と障害者権利条約
- 人権学習の視点 個別的な視点「障害のある人の人権問題」
- 主題・教材について

近年、グローバル化は我々の社会に多様性をもたらし、また、急速な情報化や技術革新は、生活を質的に変化させつつある。そして、障害のある人を取り巻く生活や障害についての考え方についても質的に大きな変化をもたらしている。

平成18年12月「障害者の権利に関する条約」が国連総会で採択され、日本は平成26年1月に同条約を批准し締約国となった。これを契機に、条約の締結に必要な国内法の整備をすすめ、障害のある人の尊厳と権利を大切にしつつ社会のあらゆる分野へ参加を促し、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う社会をめざした施策が推進されている。

本教材では、障害者が日常・社会生活で受ける制限は、心身の機能の障害のみならず、社会における様々な障壁と相対することによって生ずるものという考え方、いわゆる「社会モデル」の考え方を踏まえた障害の捉え方について学び、共生社会の実現に向けて知識や考え方を獲得させたい。

●ねらい

障害者権利条約に示された、障害の「社会モデル」の考え方を知り、社会的障壁と合理的配慮との関係を理解し、障害のある人を取り巻く社会的障壁を取り除くための思考力・判断力を高める。

●関連する教材

- 人権学習資料集〈高等学校編〉 「11 とともに生きる～共生社会の一員として～」
- 人権学習資料集〈中学校編Ⅱ〉 「8 視覚障害者・聴覚障害者への合理的配慮はどうすればいい？」
- 人権学習資料集〈小学校編Ⅳ〉 「10 「バリアフリー」について考えよう」

●本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	駅の利用方法について考えよう				
	○駅を利用する方法について考えさせる。	一斉	○ワークシート①に記入する。	○自由に発言し合える雰囲気を作る。 ○個人の努力(人)より、駅の構造(環境)を何とかすべきという意見を引き出すよう工夫する。→(「社会モデル」の考え方の土台になる)	ワークシート①
展開	障害者の権利に関する条約(障害者権利条約)の要点を知ろう				
	○障害者の権利に関する条約が批准されるまでの経過と変化を知る。	個別	○ワークシート②に記入する。	○必要に応じて、障害(者)の定義の変化に気づくようにヒントを出す。	ワークシート②

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
展開	障害の「社会モデル」と合理的配慮とは何か理解しよう				
	○「個人（医療）モデル」と「社会モデル」、合理的配慮について正しく理解させる。	個別	○各自で考えて、ワークシートに記入する。 ワークシート③ ・肢体に障害のある人の例 ワークシート④ ・視覚障害がある人の例	○授業時間の設定によってどちらかのワークシートを選択してもよい ○問題は個人ではなく社会のありようであることに気づかせる。 ○社会（施設、情報、制度）は、一部の人（障害のある人）にとって排除されやすい仕組み（社会的障壁）があることを押さえる。	ワークシート③ ワークシート④
まとめ	○駅など公共施設の例を挙げ、社会モデルの考え方が浸透しつつあることを伝える。	一斉	○障害の「社会モデル」という考え方について振り返りながら深める。	○今後の課題等にも触れる。災害など緊急時の対応も考えておく必要があることを押さえる。 (例) ・非常階段しかない ・避難放送しかない ・わかりにくい避難指示など ○障害の「社会モデル」は「ユニバーサルデザイン」につながるものであることを知らせる。	

●評価

障害の「社会モデル」の考え方を知り、社会的障壁と合理的配慮との関係を理解し、障害のある人を取り巻く社会的障壁を取り除くための思考力・判断力を高めることができたか。